

環境年表ワークシート ⑧

★水鳥の渡りを考えてみよう！ (高等学校 生物基礎 【生態系とその保全】 より)

図1、図2 (環境年表 p.310,p.311) は、渡りをする水鳥がどの場所で多く観察されたかを表したものです。図3 (環境年表 p.309) は日本における水鳥のおもな渡来地を表したものです。

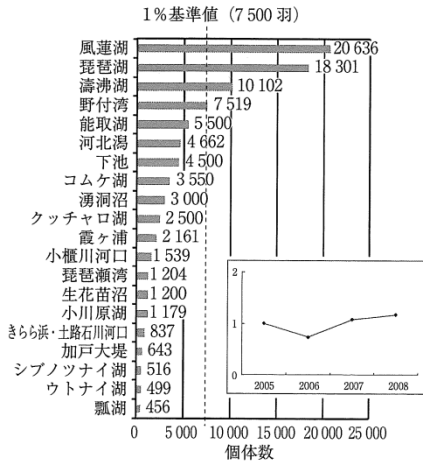


図1 ヒドリガモの最大個体数

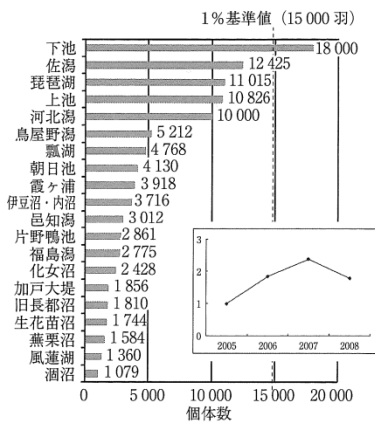
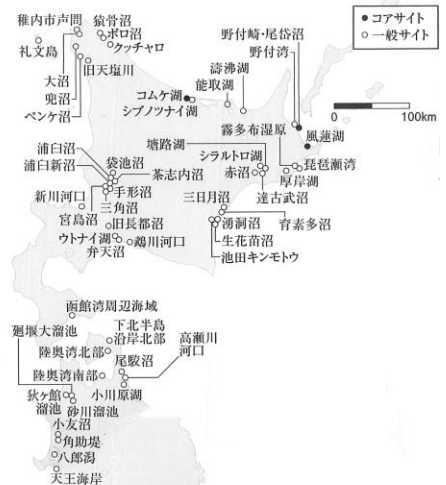


図2 マガモの最大個体数



(図1・図2は、環境省: “重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000) ガンカモ類調査第1期取りまとめ報告書” をもとに作成。
<http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>)

図3 環境省モニタリングサイト1000における水鳥(ガン・カモ、シギ・チドリ)の観察サイト

(1)ヒドリガモかマガモのいずれかについて、飛来している湖を渡来地の地図で見つけ、蛍光ペンで印をつけてみましょう。

(みんなで分担しよう！ 水鳥毎にペンの色を変えても good！)

(2)(1)で書いた地図を見て、「気づいたこと」をできるだけたくさん考えてみましょう。

(3)(1)の地図を自分たちと違う水鳥を選んだグループと共有したうえで、「どの湖沼を積極的に残す」べきか、自分なりに考えてみましょう。

参考：ラムサール条約には「個体数が1%を超える」という基準を設定しています。

(4)環境年表 p.366～367 のラムサール条約登録湿地を確認して、ヒドリガモやマガモにとってその条約がどのような意味を持っているかを考え、グループで共有してみましょう。話し合いの中で気づいたことは、以下に記載しておきましょう。
